

企業評価ワーキンググループ における主な論点

1. 企業評価制度の目指すところについて

企業評価制度を通じて実現を図るべきことは以下の3点と考えるが、如何か。

①あるべき産業像及びその実現のための施策の実効性確保

・適切な評価項目の設定などを通じて、「持続的な成長産業としての建設業のあり方に関する検討会」で議論される「人を大事にする産業」といったあるべき産業像の実現や具体的な施策(例: 月給制への転換)の実効性を確保する。

②真面目に処遇改善や生産性向上に取り組む企業が評価される環境の構築

・CCUSレベルに応じた賃金の支払い、CCUSの活用(現場登録や履歴蓄積など)、人材育成、DX推進などに取り組む企業が、建設市場や労働市場などから評価され、仕事や人材が集まり、持続的な成長を遂げられるような環境を構築する。

③産業全体の成長促進

・①②の観点から、業界のトップランナーとなるような企業やその取組にフォーカスを当てることで、産業全体の成長を促進する。

WGにおける主な論点(総論)

2. WGの目指すところ(アウトプット)と進め方

- このWGのアウトプットとしては、現行制度の検証を行いつつ、評価制度に関するニーズ等を把握した上で、
 - ①あるべき産業像及びその実現のための施策の実効性確保
 - ②真面目に処遇改善や生産性向上に取り組む企業が評価される環境の構築
 - ③産業全体の成長促進といった観点から、新たな評価の観点や評価制度の活用促進策の大きな方向性について、論点整理を行う。

<論点整理のイメージ>

現行制度の課題分析(例:経営事項審査では●●を評価するための項目がない)

評価制度に関するニーズ等の整理(例:■ ■が評価されると▲▲といったシーンで活用可能)

新たに導入すべき評価の観点(例:★★に関する項目を追加すべき)

活用促進策(例:評価対象や活用機会の拡大、評価を受けた企業が一覧できる仕組み、制度的な位置づけや関連制度との連携など)

- 実効性のある仕組みとするため、評価を受ける側、評価結果を利用する側に対してヒアリングなどを実施して検討を進めることとする。